

## 柳町小学校の教室対策について（整備方針案）

文京区立小学校教室対策検討委員会（以下「検討委員会」という。）における検討結果において、早急に抜本的な対策が必要とされた柳町小学校については、次の整備方針案に基づき対応を進める。

## 1 学級数推計（検討委員会における検討結果より）

学級数推計								35人学級拡大の場合
年度	25	26	27	28	29	30	31	31
推計	10	12	14	14	14	14	15	18

※ 25年度はH25.4月  
現在の実際の学級数

## 2 整備方針案

## (1) 対応の内容

- ア 平成26年度の必要教室（12教室）については、既存校舎の改修、転用により対応する。  
⇒ 2階の会議室、放送室等を転用。25年度中に改修工事
- イ その後の必要教室については、増築により確保する。

## (2) 校舎の増築において確保する教室数

- ア 将来需要の推計に基づく必要教室数 15教室（31年度）
- イ 教育環境確保のための必要教室等（転用した特別教室等の原状回復を含む。） 3教室  
→ （例）特別支援教室、少人数指導教室、給食室拡張
- ウ 国の制度により35人学級が全学年に拡大した場合への対応 3教室
- ◎ 上記ア～ウの合計により、合計21教室を確保する必要がある。  
したがって26年度現在の教室数（12）からの不足分＝9教室を増築により確保する必要がある。

## (3) 育成室の拡張又は増設

地域における今後の育成室へのニーズを踏まえ、増築に合わせて育成室の拡張又は増設を検討する。

## (4) 増築校舎の整備イメージ

別紙のとおり

## 3 今後の予定

- 平成25年7月 整備方針案 保護者等に説明  
整備方針案 区議会文教委員会報告（7月25日）
- 9月上旬 整備方針の決定  
整備方針 保護者等に説明  
区議会3定に補正予算案（設計委託）提出・文教委員会報告
- 10月～12月 増築工事基本設計
- 平成26年1月～ 増築工事実施設計
- 平成26年度～27年度 建設工事（既存建物等の除却を含む。）

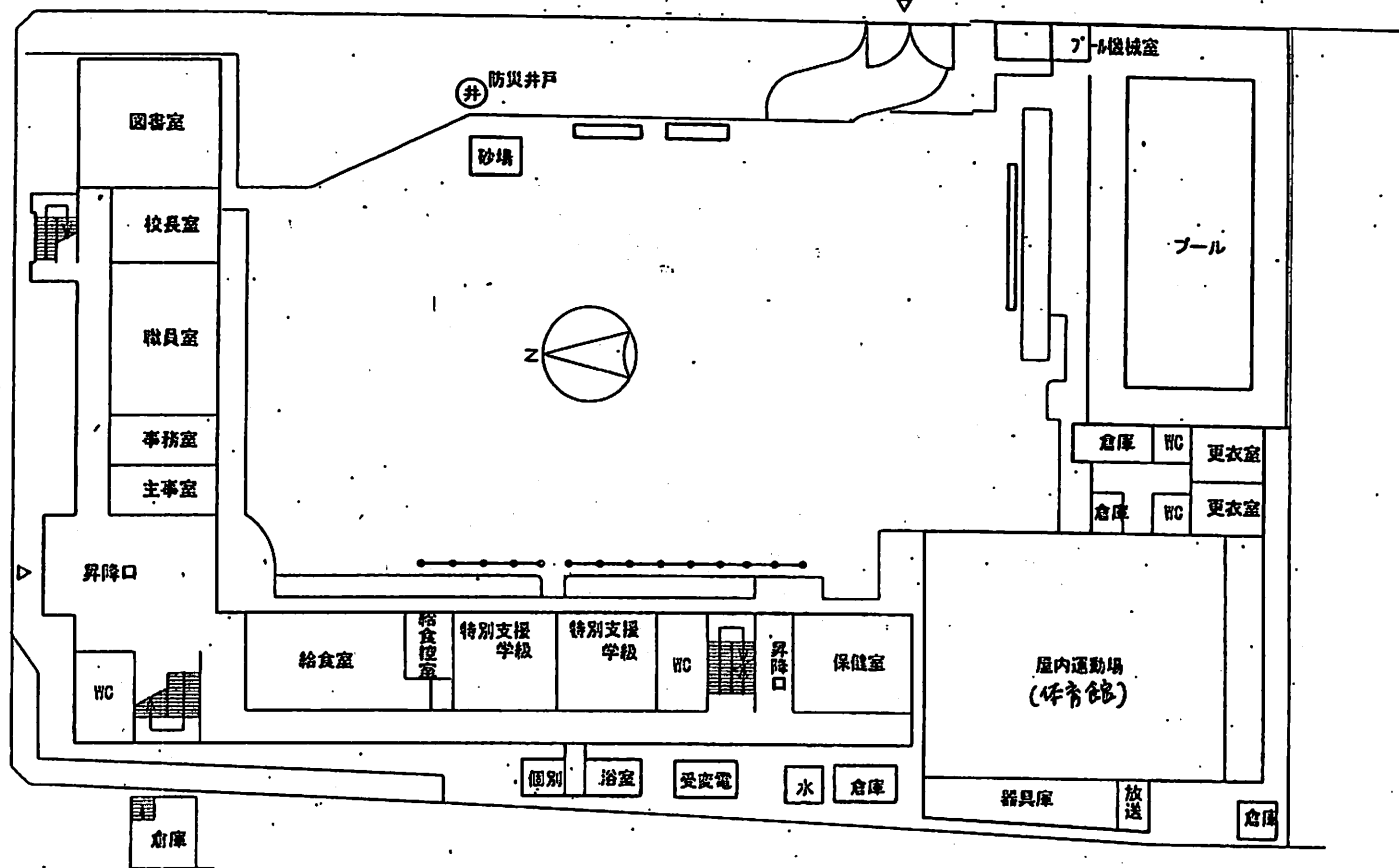
## 柳町小学校の増築について（整備方針案の比較）

### 1 前提条件

- (1) 増築部分に普通教室9教室分を確保する。
- (2) 既存校舎とのアクセスを確保する。

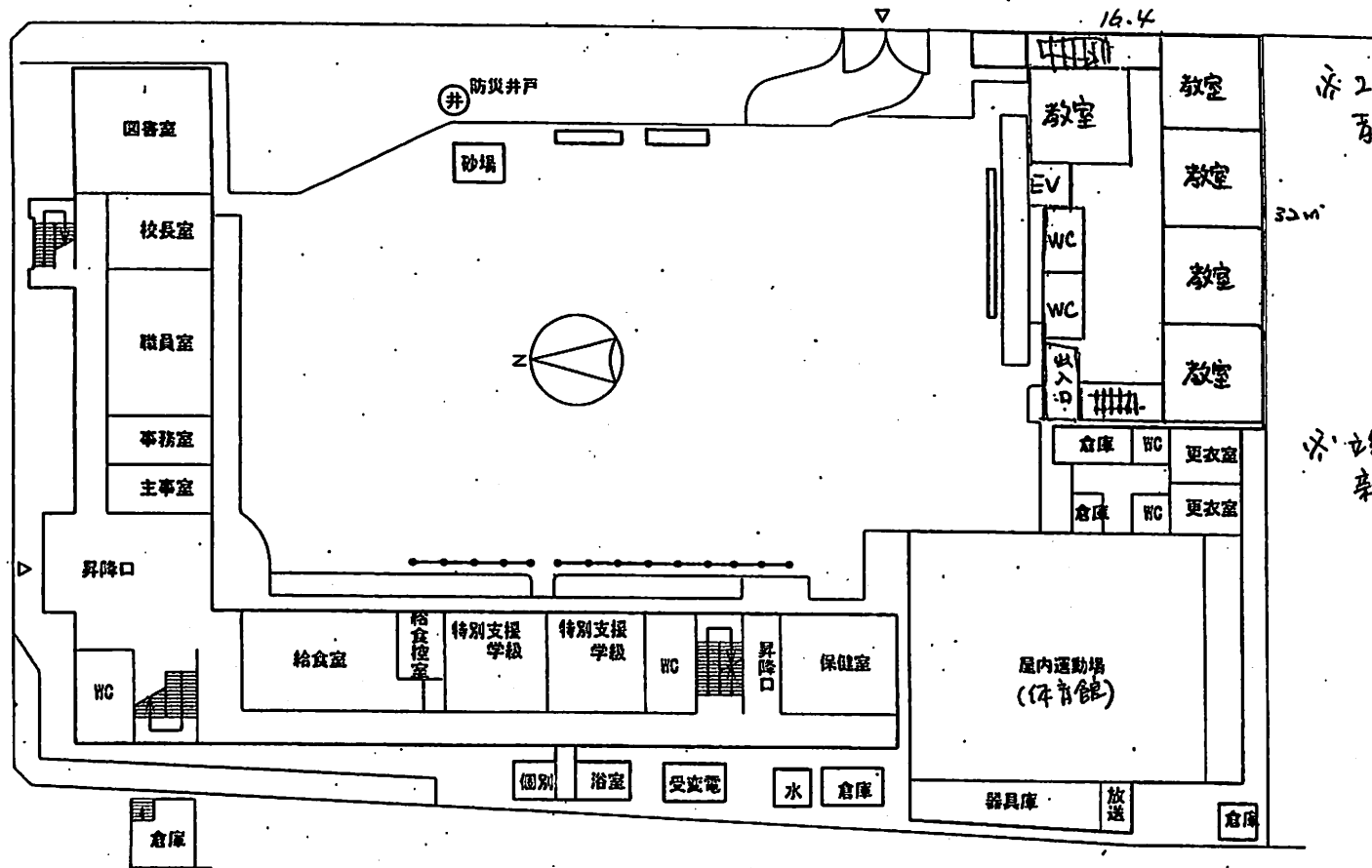
### 2 増築プラン

案 プール部分を活用（教室とプールを合築）	参考案A 道路側の植栽部分を活用（教室を増築）	参考案B 体育館部分とプール部分を活用 （教室を増築、プールと体育館を合築）
工事費見込み <u>5～6億円</u> 工期見込み <u>平成28年3月</u>	工事費見込み <u>3～4億円</u> 工期見込み <u>平成27年9月</u>	工事費見込み <u>9～10億円</u> 工期見込み <u>平成29年3月</u>
メリット ・ 工事中の教育環境への影響が小さいほか、校庭や植栽等、既存の教育環境を維持したうえで施設整備ができる。 ・ 竣工後、育成室下の更衣室等を改修することで、新たな育成室スペースを確保できる。	メリット ・ 工事中の教育環境への影響を最小限にできる。 ・ 既存校舎と隣接するため、アクセスが良い。 ・ 夏季の学校のプール使用に影響がない。 ・ 工事費が比較的安価で工期も短い。	メリット ・ 既存校舎と隣接するため、アクセスが良い。 ・ 体育館とプールを更新することで、将来的な教育環境の向上につながる。 ・ 増築部分に新たな育成室スペースを確保できる。
デメリット ・ 既存校舎との間に体育館が存在するため、アクセスが良くない。 ・ 27年度の夏季は学校のプールが使用できない。	デメリット ・ 校庭が狭くなる。 （現況の植栽より約5メートル張り出す） ・ 植栽を伐採するため、敷地内の緑が失われる。 ・ 新たな育成室スペースの確保が困難である。	デメリット ・ 校庭が狭くなる。 （現況のプールより約10メートル張り出す） ・ 育成室部分を除却するため、仮設育成室が別途必要となる。 ・ 工事期間中、校庭、プール及び体育館が使用できない。 ・ プールと体育館の解体、新しい校舎、体育館及びプールの工事が必要なため工期が長くなり、工事費も嵩む。
評価 既存校舎とのアクセスの面は良くないが、校庭の面積確保や貴重な緑である植栽等、既存の教育環境が保存できる等のメリットがある。また、工事中の教育環境への影響は小さく、プールへの対応は近隣校施設の活用が可能である。	評価 既存校舎とのアクセスの面やコスト等でのメリットはあるが、校庭が約160㎡狭くなること、貴重な緑である植栽を大幅に削る必要があること、新たな育成室スペース確保が困難なこと等のデメリットがある。工事中の教育環境への影響が最も小さい。	評価 体育館とプールが更新されることや、既存校舎へのアクセスの面でメリットはあるが、校庭が約400㎡狭くなり、教育環境に与える影響が大きい。工期が長くなり、教室不足の期間がさらに1年長くなること、校庭・体育館・プールが工事中使用できないため体育の授業や学校行事に多大な支障が生じる。



校舎配置図、1階平面図 S=1/600

現在のプールの位置に1・2階教室、3階プールを建設

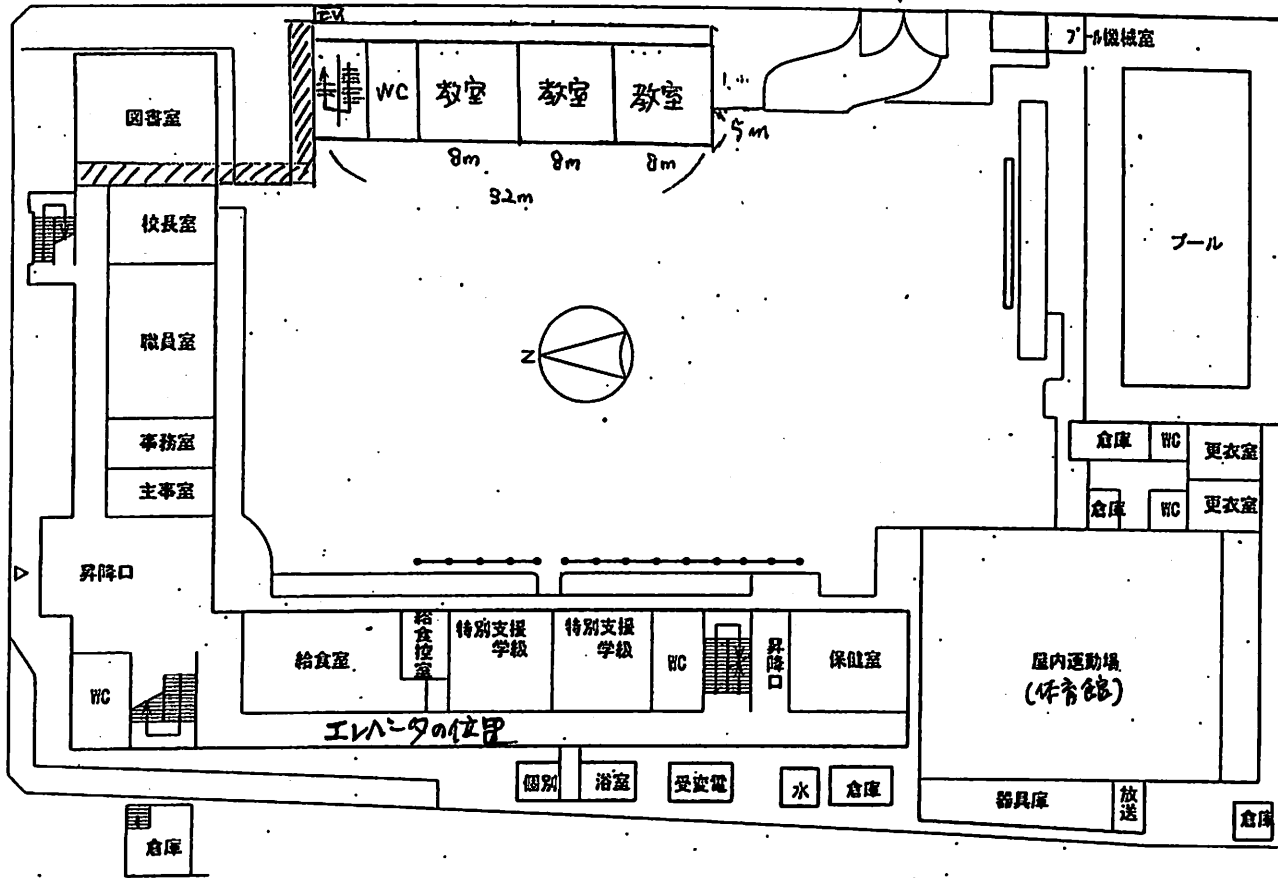


※ 2階部分は1階とほぼ同様ですが、教室1室分を更衣室として活用する。

※ 竣工後、育成室下の更衣室等を改修し、新たな育成室スペースの確保が可能。

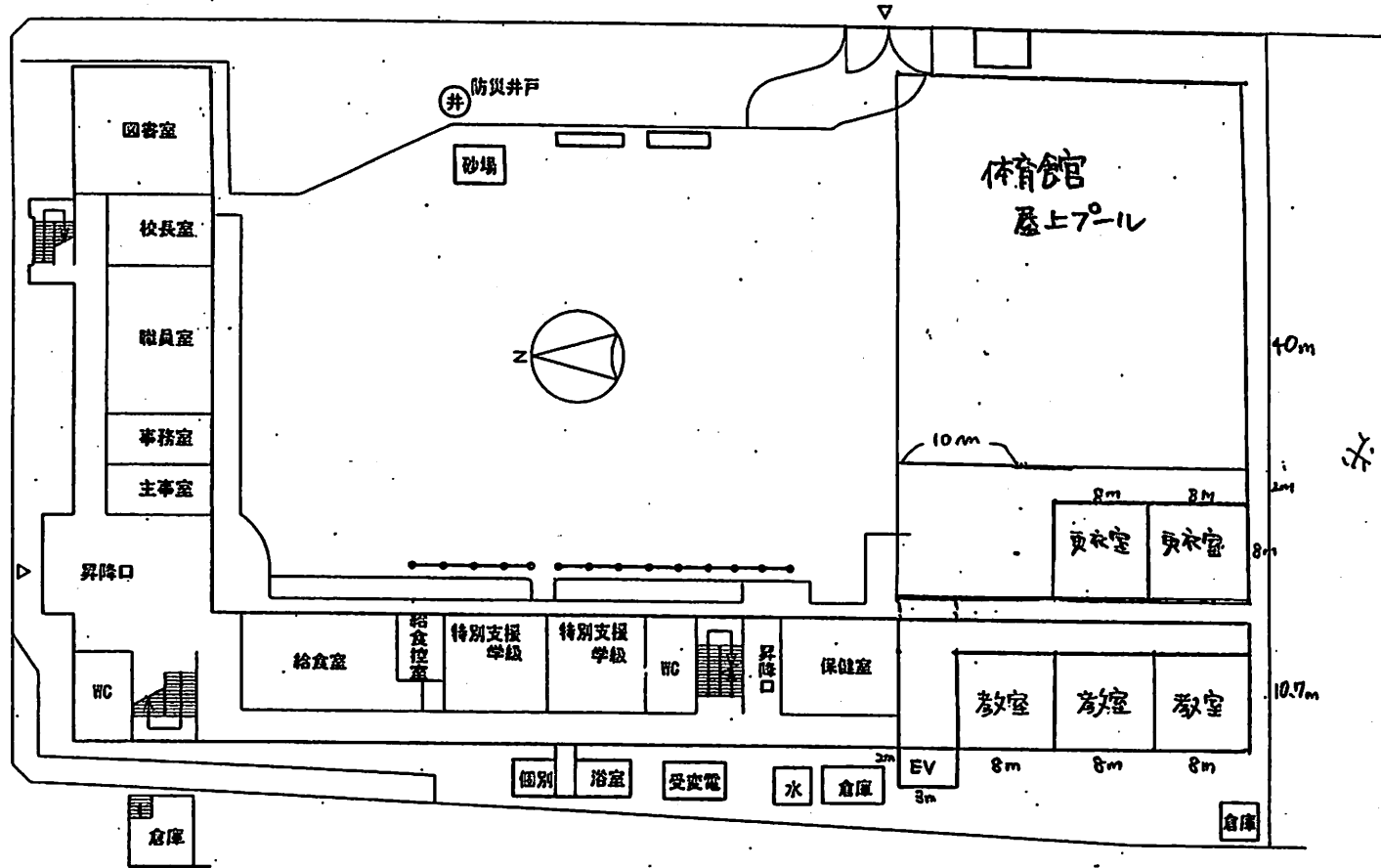
校舎配置図、1階平面図 S=1/600

現在の植栽の位置に3階建の教室を建設



校舎配置図、1階平面図 S=1/600

現在の体育館の位置に3階建の教室、現在のプールの位置に1~2階体育館、3階プールを建設



※ 体育館2階部分に育成室スペースの確保が可能。

校舎配置図、1階平面図 S=1/600